

# 英語科におけるアクティブ・ラーニング型の授業を目指して (実践報告)

— 高校2年コミュニケーション英語Ⅱにおける、互いに教えあい学びあう授業の試み —

石原 義文

本研究では、アクティブ・ラーニング型の授業をめざし、高校2年生43人のクラスの英語コミュニケーションⅡの中で英語のテキストを用いた生徒同士の教えあう授業の実践を報告する。学習者どうしの教えあいは、教材の理解、知識の定着に効果をもたらす可能性がある。また、教えるという他者のために行う協同的な活動を通して、更に準備の段階や、教わる段階で気軽に疑問点を質問し合えるという点などを通して、より深い学習を経験できると思われる。本報告では、教えあう授業の実践事例と生徒の反応、事後の定期テストの平均点の変化、今後の課題について述べる。

## 1. 実践の背景

2016年8月1日に発表された「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント」(中央教育審議会教育課程企画特別部会)<sup>1)</sup>では、学習内容を深く理解し、社会や生活で活用出来るようにするためには、知識の量や質と思考力の両方が重要。学習内容の削減は行わず、「アクティブ・ラーニング」の視点から学習過程を質的に改善することを目指すことが明示されている。その視点として「学校における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためのものを示し、「学び」の本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の視点と定めている。

さらに、アクティブ・ラーニングを文科省は以下のように定義している。

「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」(「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」の答申の用語集)<sup>2)</sup>

従来より教室内では上記に挙げられているようなグループ学習等が行われてきたが、今回の答申の中

では特に、  
(1) 授業改善のための視点としての「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す、

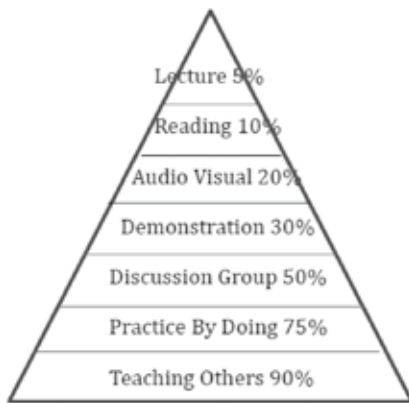
(2) 「学修者の能動的な学修への参加」が認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成

とあるように、主体的、能動的という視点が、アクティブ・ラーニングには欠かせないということになりそうである。

山本(2016)<sup>3)</sup>は、上記の視点を踏まえ「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力が備わった人とは自立した人であるといえます。」と述べ、自立した学習者を育てるという目的を必ず置いて「アクティブ・ラーニングを行う目的は自立した学習者を育てることです。『教えない授業』は生徒が自立していないと行えないので、アクティブラーニングは『教えない授業』を実現するための最適の学習スタイルになります」と述べ、生徒による授業を『教えない授業』の目指す姿の1つとしている。

下記の Learning Pyramid (the National Training laboratories)<sup>4)</sup>にも示されているように、人に「教える」という活動が、最も知識の定着が行われることから、筆者はアクティブ・ラーニング型の授業の1つの方法として、いわゆる、普通の授業と離れた、特設のテーマを投入する形ではなく、普通の教科書を使った生徒同士の教えあう授業を試みることにした。

The Learning Pyramid



## 2. 授業の実際

広島大学附属高校2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」における1クラス43名を対象に実施した。当クラスは比較のおとなしいクラスであり、講義型の授業においては、筆者の授業の進め方のまずさもあり、発問をしても反応は薄く、学習意欲の低い生徒も散見される。しかしながらペアを組んでの音読や、サイトトランスレーション等の単純な活動を行う際には、比較的主観的に取りくむこともある。このような状況から筆者自身も授業になんらかの改善を施す必要性を感じていた。

### 1 時間目

教えあうことの慣らしとして、エキスパート活動、ジグソー活動を経験させる。

4人～5人から成る9つのグループで活動を行う。グループの構成は、クラスの座席で近いもので構成できるよう、教師側で指定したものを提示した。

### 授業の流れ

- (1) グループの活動に入る前に、前記の The Learning Pyramid を提示し、教えあうことの意義を説明し、動機付けを行なった。
- (2) クラス全員に入試問題の正誤問題12問をプリントしたものを配布し、個人で解答を行わせる。
- (3) エキスパート活動  
12問の入試問題を3問ずつ4つ(ABCD)に切り分けて正解を示したプリント(資料1)を用意する。

各グループからA～Dのそれぞれの担当ごとに集合する。(例えば各グループからA担当の生徒がエキスパートグループを形成する。)

正解を見て、おのおのジグソー活動に備えて、どのような説明をしたらよいか、話し合う。

### (4) ジグソー活動

それぞれの担当が元のグループに帰り、それぞれの担当の問題の正解を示し、考え方を説明する。

### (5) 振り返り

学んだことを文で表現してみる

2時間目以降は教科書を用いて「教えあう授業」を実践した。

使用教材：PROVISION English Communication II Lesson 9 “The Underground Reporters”, 桐原書店<sup>5)</sup>

### 2 時間目

(1) Part 1, Part 2の個人読みで、英文の内容を把握するとともに、解釈上の疑問点、文法上の疑問点などに印をつけておくように指導する。(15分)

(2) (資料2参照)

前記の9つのグループの指導担当を知らせる。partごとに語法・文法解析担当グループが2つ。内容質問作成担当グループが2つ。2つのpartの音声担当グループが1つの合計9グループが何らかの担当になる。

ただし、語法・分析チームには、分析の手立てとして、担当部分の教師用指導書のコピー1部を、この時間の終わりに回収することを伝え、配布する。

内容質問作成グループは、なるべく英語で質問を作成するようにし、必ず、最後にオープンエンドクエッションを入れることを課する。

音声担当グループにはCDを貸与し、発音の確認をさせる。

(3) それぞれのグループで、担当箇所について、後に他グループで教える項目、説明方法などを話し合う時間を設ける。その際配布した、教案記入用紙に教授内容を記入する。(資料3参照)

### 3 時間目

Part 1について

(1) 各グループで教える内容について最終打合せ。  
(2) 音声担当チームが教壇に立ち new words の発音練習とともに発音上の注意を説明する。

各メンバーが、他のグループに派遣されてそれぞれの生徒の発音を確認する。

(3) 語法・文法分析チームの2グループ(8～9人)が残りのグループにそれぞれ派遣されて、担当箇所の説明、質問等を受け付け解答する。

(4) 内容質問作成グループ2グループが(8～9人)が残りのグループにそれぞれ派遣されて、質問を出し、生徒に解答させるとともに、内容について確認する。

(5) 学習したことを、振り返り、文字化する。(資料4)

#### 4 時間目

Part 2 について、3 時間目との同様の活動。

5 時間目・6 時間目

part 3, 4 について part 1, part 2 と同様の活動。

## 結果と考察

### (1) 生徒の反応 (資料5)

この授業形式についての事後の生徒アンケートをとった結果、「教えることで学習は深まると思う」という項目について、そう思う、やや思うと肯定的に答えた生徒が87.2%で、「教えあう授業形態は楽しい」の項目について、肯定的に答えた生徒が74%、「他人の意見を聞くのは自分のためになる、参考になる、刺激になる」に対して、77%が肯定的に考えているという結果になった。また「生徒からの授業は理解できた」については、71.8%が肯定的であった。今回の授業形態への生徒の評価は、好意的であると言える。

一方で「理解できない部分が多く残った」に、ややそう思うと答えたのは46%であり、「自分が教えない部分は、理解がおろそかになる」と答えた生徒は69%を数えた。

授業を受ける立場での受身的な態度と、教える側に立ったときの取り組み方の違いが、このような答えになっていると思われる。

自由記述欄でも、概ね高評価であった。代表的な「眠くならない」「やるからには本気でやらないと、他の班に申し訳ない」「自分が質問する側になると、いつも以上に本文を理解しようと思った」等の意見がある一方で、「普通の授業より面白くて楽しいけれど、理解がおろそかになるかも」「努力に対する成果が目に見えてわからないため、やる気が出ないところもあるのではないかな。授業を互いにした後、各分野について小テストを使うことで理解度を調べたり、授業に対する評価を書くことよいいのではないのでしょうか」「楽しいが、生徒が教えるだけではとりこぼしや、不完全な部分があると思う」のように、不安を覚える向きもあった。

### (2) テストへの影響

中間試験と期末試験の平均点について、当該クラスの1学期の平均点と「教えあう授業」形態をとった後の今回の授業の教材が範囲になっている2学期中間テストの平均点について、t検定を実施したが、各クラスとの統計的な有意差は見られなかったが、

以下の表のように、クラス平均点の相対的な順位に変動が見られた。

当該クラス（網がけ）と他4（A～D）クラスの平均点

順位	1学期中間	1学期期末	2学期中間
1	A 72.0	B 64.5	B 56.3
2	B 69.3	A 62.0	51.0
3	C 65.5	C 57.6	C 45.8
4	65.3	56.8	A 45.0
5	D 60.0	D 50.9	D 40.6

教えあう授業という形態で、生徒はアンケートに見られるように、教えることが自分の学習を深めることを実感できたようである。さらに授業中での様子を見ると、教えている最中にグループ内で活発に質問をやりとりする姿が観察された。一斉授業の中では、遠慮しがちな質問も、少人数で同じクラスの仲間同士という気楽さがもたらしたものであり、これまでに筆者が当該クラスで経験したことのない活発さであった。しかし、アンケートにあるように、生徒同士の教えあいでは、取りこぼすことがあることに対する不安があるのは事実である。また、授業内での筆者の観察によると、前記のような活発なやり取りがある一方で、グループによっては、ただ単に教える側が一方的に教え、聞く側はひたすら言われている内容を記述しているだけという姿も見られた。

生徒のアンケートの提案にもあったように、理解の度合いを図る方法と、教える側に対する評価方法を設けることが必要と思われる。さらに、教えるという行為が教えっ放しにならないよう、教える側の何らかの反省・次への改善について考慮する機会を設けることも必要である。

更に、教えるということについては、今回生徒任せになっているという点が課題として挙げられる。どのような観点で、教材を教えるのかが明確にすることが求められる。例えば、語法1つ教えるにしても、単純に「これは分詞構文です」「これは関係代名詞です」という結果の伝達するのではなく、そもそもなぜそのように考えられるのかを説明できなければ、今後知識を応用できないといえる。

## 参考・引用文献

- 1) 中央教育審議会教育課程企画特別部会、『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント』, 2016.8.1, 2
- 2) 中央教育審議会答申、『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、

- 主体的に考える力を育成する大学へ～』,  
2012.8.28, 37
- 3) 山本崇雄, 『なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか』, 日経BP社, 2016年, 29-30.
  - 4) National Training Laboratories, *Learning Pyramid*
  - 5) 田中茂範他, *PROVISION English Communication, Lesson 9*, 桐原書店, 2016., 114-124
  - 6) 安永悟・関田一彦・水野正朗編『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』東信堂, 2016
  - 7) 小林昭文『7つの習慣 アクティブラーニング最強の学習習慣が生まれた』産業能率大学出版部, 2016
  - 8) 山本崇雄『はじめてのアクティブ・ラーニング!』学陽書房, 2015

(資料1) エキスパート活動 A Group 用

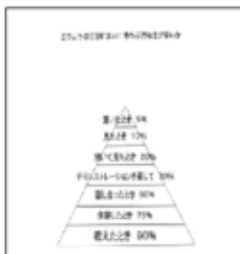
★解答を見て、グループで解答にいたる理由を話し合おう。元のグループでどのように伝えるか考えよう。

- (A) The company, <sup>(1)</sup>located in South East Asia, will send a letter <sup>(2)</sup>requested immediate shipment of <sup>(3)</sup>the parts they ordered <sup>(4)</sup>two months ago.
- (B) For the first time <sup>(1)</sup>on two decades, young people <sup>(2)</sup>under the age of 25 smoked <sup>(3)</sup>fewer cigarettes this year than <sup>(4)</sup>they had last year.
- (C) <sup>(1)</sup>In many cases, people seem <sup>(2)</sup>irritated and <sup>(3)</sup>anger when they cannot get <sup>(4)</sup>enough rest.

解答 (A) 2 ⇒ requesting (B) 1 ⇒ in (C) 3 ⇒ angry

(資料2) 生徒に配布した役割分担・任務内容のプリント

互いに教えあって学習を深める！(Lesson 9)



**具体的態度目標**  
 「しゃべる」「質問する」  
 「説明する」「動く」  
 「チームで協力する」  
 「チームに貢献する」

任務

- 「音読完璧チーム」: 全体の前で発音指導をする。特に new words は自身が担当部分の音読が完璧にでき指導できるよう互いに研鑽を積む。(CD を利用しても OK)  
 \*特に全体を音読する中で、特に注意するものがあれば2~3箇所指摘する。
- 「語法・文法解析チーム」: 担当部分の英文の語彙・語法・文法・解釈を理解、説明できるようにしておく。他の紙でどこを重点的に説明すべきか決めておく。  
 \*アンチョコを1部配布するので、それを参考にしてください。  
 準備が終われば回収します。
- 「質問作成チーム」: 担当部分の内容に関して、なるべく英語で質問と解答を作成する。他グループに行って質問、解答をもらったり、説明を行う。  
 \*必ず、英文に直接書かれてはいないが、内容に関連することで、互いに自由な意見が出る可能性のある、オープンクエスチョンを1題作る。  
 例: 「What would you do in your position?」とか。

本日の流れ

1. グループに別れる
2. 各担当の部分を、グループ内で学習し、他の組に教えるために、どこを設けて、どのように説明したらよいかを話し合う。
3. 各担当部分は以下の通り  
 Lesson 9 part 1 担当  
 ①②「語法・文法解析チーム」③④「内容質問作成チーム」  
 Lesson 9 part 2 担当  
 ④⑤「語法・文法解析チーム」③⑥「内容質問作成チーム」  
 Lesson 9 part 1・2 担当  
 ⑤「音読完璧チーム」

明日以降の流れ(1時間の授業当たり)

1. パートごとに全体の前で発音の指導をする。New Wordsや本文の発音上の注意を与える。
2. part 担当の「語法・文法解析チーム」が一人ずつ(場合によっては2人)他のグループについて、指導・質問に答える。
3. 「質問作成チーム」がそれぞれ、一人ずつ(場合によっては2人)他のグループについて、指導・質問に答える。
4. 各個人がパートの Retelling ができるようにする。

A	B	A	B	A	B
C	1	D	C	4	D
E	C	A	E	A	B
A	2	D	B	5	D
B	E	C	E	E	C
A	D	A	C	A	D
B	3	E	B	6	D
C					9



(資料4) 振り返り用プリント

No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

Part 4 Review  
February 1942

In early February 1942, the news arrived that all the Jewish people in the town must be sent to a concentration camp. Rudy had to get ready to leave. As he was packing, he wondered who he could keep the set of twenty-two newspapers during his absence. He could not take them with him, since he had no idea what was going to happen to him. If he left them behind in the house, like other things, they might be destroyed. Kiepp was more than just a newspaper. It was a precious record of the lives and dreams of the many Jewish boys and girls who had been involved in its creation. By writing it they had tried to brighten the gloom around them and keep alive the hope that one day peace would return.

In the end, he thought of a good place to store the newspapers. He could only pray that they would make it safely through the war. Saying farewell to Kiepp was like saying farewell to dear friends.

In April, the town's entire Jewish population was sent by train to a concentration camp.

More than six million Jews had lost their lives by the end of the war. In 1945, almost none of the children and young adults from Ludzko survived. As for Rudy, one day he was working in the camp when a German soldier ordered him to hand over the coat he was wearing. He refused. He was shot on the spot, having fought for his rights and his dignity until his last breath.

All twenty-two issues of Kiepp came safely through the war. Rudy had given them to a Christian friend for safekeeping, and after the war they were returned to Rudy's sister, who had miraculously survived. Kiepp is now on display at the Jewish Museum in Prague.

bc. do  
予空他に  
可能、運命  
予空、運命  
予空

この英文の理解のところで、説明が少し短か過ぎるから、授業では補足して、質問もそこら辺を引っ掛けて、あなたの理解度を確かめたい、できれば併せて分かっていたらいい。

wonder where  
どこでかくるかは

wonder why  
なぜか

take it safely through  
この戦争を安全にやり過ごす

take it safely through  
この戦争を安全にやり過ごす

Q1. What did Rudy finally decide to do with Kiepp?

Q2. How did the museum of Kiepp come safely through the war?

(資料5) 事後アンケート

1. 教えることで学習は深まると思う。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
2. 生徒からの授業は理解できた。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
3. 理解できない部分が多く残った。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
4. 自分が教えない部分は、理解がおろそかになる。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
5. 石原はずいぶんと楽をしていると思う
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
6. このままこの形式で進める授業がよい。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
7. 教えあう授業形態は楽しい。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
8. グループ内で話し合いをするのは、時間がかかって無駄だと思う。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない
9. 他人の意見を聞くのは自分のためになる。参考になる。刺激になる。
  1. そう思う
  2. やや思う
  3. どちらでもない
  4. あまり思わない
  5. 思わない

集計結果 (人)

	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	6 番	7 番	8 番	9 番
1 そう思う	19	6	0	6	15	6	15	1	16
2 やや思う	15	22	18	21	11	7	14	4	14
3 どちらでもない	3	7	11	6	5	16	7	12	7
4 あまり思わない	2	3	8	6	4	8	2	15	2
5 思わない	0	1	2	0	4	2	1	7	0
平均	1.69	2.26	2.85	2.31	2.26	2.82	1.97	3.59	1.87

## 10. 自由記述欄（ぜひとも感想・批判を書いてください）

### 肯定的な意見

楽しかったです。今までは投げかけた質問に受身に答えるだけだったが、自分が質問をする側になるといつも以上に本文を理解しようと思った／「ココに注目してほしい」的なことをつけてもらえるとスムーズに出来そう／あまり自分たちの班が充実できてなくて申し訳ないと思いました。やるかには本気で勉強しないとイケないと思いました／眠くならない／楽しくっていいよね／時間がもっとあればよい／こういうのがちょっとずつあると、自分でちゃんと考えんと!って思うから良い。でも分からんときにわからんままになってしまうことが怖いと思う／楽しかったし自分の担当するパートの理解が深まった、今度を役割をローテーションしてやりたい／グループによって楽しいときと楽しくないときがあったけど、とっても楽しかったです／結構分かりやすいし楽しいしよかった／自分でやったところは特に理解できた／楽しく学べるのに理解できてとても良かったです。授業を聞くより調べる分記憶に残ると思う／楽しいのに後から振り返ってみるととても理解が深まった気がしました／形式は良いと思うが、グループごとにためになる度合いが異なるのがいやだ。どうしても疑問が残ってしまう。楽しい／自分で調べたり、人と教えあったりするので理解が深まると思う。最後に先生がまとめをしてくれたら有難い／Reading by ourselves makes perfect

### 問題点の指摘

普通の授業より面白くて楽しいけれど理解がおろそかになるかも／自然に内容を理解できたと思ったが、生徒が教えるだけではとりこぼしや不完全な部分があると思った／自分が解釈ミスをした時の心苦しさが辛い／音読班は何を教えていいのかわからなかった／音読、文法、質問でなくパートで分けてほしいと思った／努力に対する成果が目に見えて分からないため、やる気が出ないのではないのでしょうか。授業を互いにした後、オープンクエスチョン、発音、文構造についての小テストを行うことで理解度を調べたり、授業に対する評価を書かせたりしていかげんでしょうか／来る人によってテンションが違う／正直グダグダになるときがあるので、その時間が無駄になる／音読班は得るものが少ない気がする／グループによってテンションが低いとサボりそう